

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	観光文化学インターンシップ
	学部・研究科等名	文化学部
	担当教職員名・役職	平竹 耕三 教授(文化学部)、成田 智恵子 助教(文化学部)
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	14
	受入企業等数	12
	受入企業等名	株式会社らくたび、他11社
	産学協議会の整理上の類型	4.タイプ3(専門活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	5.他県をまたぐ広域でのキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動
	上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	協力企業・団体等の業務補助や事業PR等の考案および企業研修に従事した。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	事前・事後学習への取り組み具合やグループディスカッションへの積極的な参加、発表および質疑応答における姿勢、課題レポートの内容、就業体験への能動的な参加態度等から総合的に評価している。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規的教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	人権研修の実施。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	メール等で実習期間中の困りごとなどの相談に対応し、必要に応じて教職員と面談を実施する。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	何のために本授業を履修するのか、どのような能力を身に付けたいのか、将来的にどのような自分になりたいのか等、目的と目標の整理のために個人ワークおよびグループディスカッションを実施し、そのレポート作成を行う。また、ビジネスマナー・人権・情報倫理に関する研修も行い、知識と技能の習得を目指している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実際の就業体験の学びを深めるため、就業体験の前後で得たことや心の変化などを「自己分析シート」にまとめる。また、全体報告会にて、自分の学びに関する発表を行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	上記、3-2-3のとおり。
	要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み		1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み		
4-3.上記回答内容に関する詳細		就業体験前後に受講生に課題を課し、仕事に対する意識や行動の変化を経時的に確認している。事前学習では「株式会社マイナビのキャリアデザインツール適性診断MATCH plusによる自己分析」「就業体験に臨む際の目的と目標の設定」を通じて、事後学習では「就業体験自己分析シート」「就業体験報告会(プレゼンテーション)」を通じて学習到達度を把握している。なお、事後学習の自己分析シートに「①就業体験中のモチベーション」「②モチベーション・考え方が変化するきっかけ」「③②の前後関係・得たこと・心の変化」「④業務内容」の詳細を記録させることによって、受講生自らが就業体験中および就業体験後の経時的な変化や効果を定性的に分析できるようにしている。さらに、事後学習のプレゼンテーションでは、事前学習で設定した目的と目標の到達度を定量的・定性的に振り返らせることによって学修効果を可視化し、今後のキャリアデザインに活用できるようにしている。

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	2023年8月～9月の中で連続5日以上を設定
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	2023年8月～9月の中で合計し、5日以上を設定
	5-3.上記回答内容に関する詳細	連携企業および学生のスケジュールを調整のうえ、2023年8月～9月の中で合計し、5日以上を設定している。なお、連続した5日間を限定してはいない。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	企業開拓時に、企業・大学それぞれのニーズを擦り合わせ、企業任せではなく協働して実習内容を策定している。また、実習後には企業を訪問し、振り返りや次年度に向けたプログラムの改善等についての打ち合わせを行っている。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2023/3563.html	
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	文化学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1941
	メールアドレス	bunka-ijm@star.kyoto-su.ac.jp